# 



#### ごあいさつ

#### はじめに

豊川地域コミュニテイ運営協議会、第3分科会では豊川地域の文化・歴史について各地区の行事や地域内の取組を通じて紹介し、地域内の情報共有をしていくことにより、地域のコミュニテイを形成していく事を目的として活動をしています。

既に平成29年度には、豊川地域で共通の行事として実施され、地域の皆さんに親しまれている〔道祖神とどんど焼き〕の詳細について作成した冊子の実績があります。

平成30年度は、これ等の経緯を踏まえて過去の歴史を振り返り、先人の 資料や記憶を辿りながら、豊川物語を作成することに至りました。

今回は飯泉・成田・桑原地区の誕生と由来、変遷、文化遺産の探究等を冊子にまとめました。これを基に豊川物語の内容紹介と地域コミュニテイ活動への展開が出来、豊川の文化活動の発展に繋げれば幸いです。

豊川地域コミュニティ運営協議会会長 和田 道明

# まく じ 次

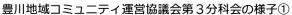
とょかわ 豊川のあらまし2
eshp でまず 豊川の古地図3
eshp げんだいちず 豊川の現代地図4
ง เตือะอดทักยา <b>飯泉物語</b> 5
<sup>なる だ ものがたり</sup> 成田物語7
くわはらものがたり 桑原物語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

# 豊川のあらまし

豊川地区は、昭和28年9月に60有余年続いた豊川村が「町村合併促進法」により、昭和29年7月15日、豊川村の総意により小田原市に編入合併することになりました。

そして、豊川村とは、明治22年町村制施行の際、桑原村、成田村、飯泉村の3村が統合して生まれました。さらに昔になりますが、この地を鎌倉幕府が治めた以降、足利、大森、北条そして大久保と所管が変わっていき、明治以降は、小田原県、足柄県、神奈川県と変わり現在に至っています。

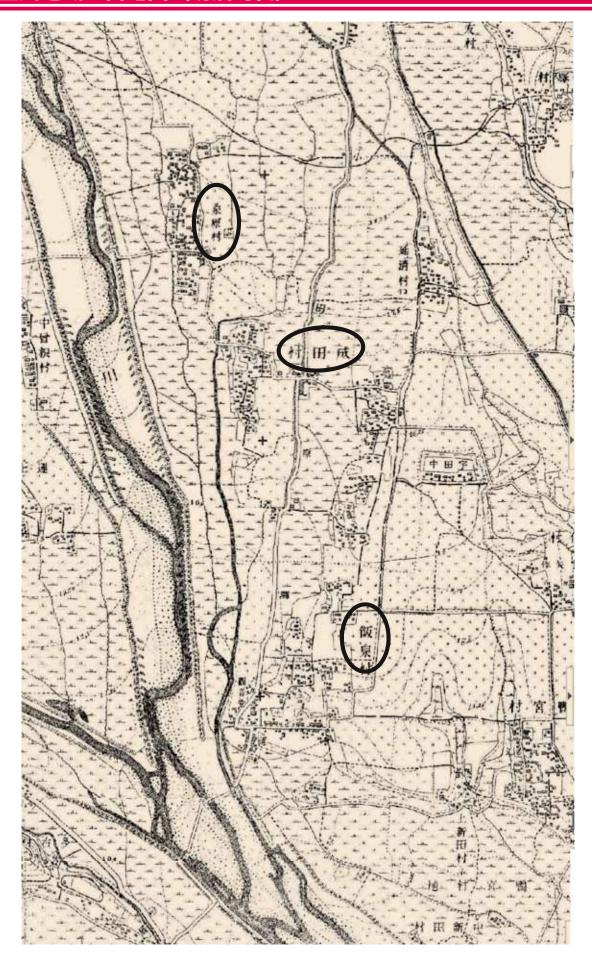




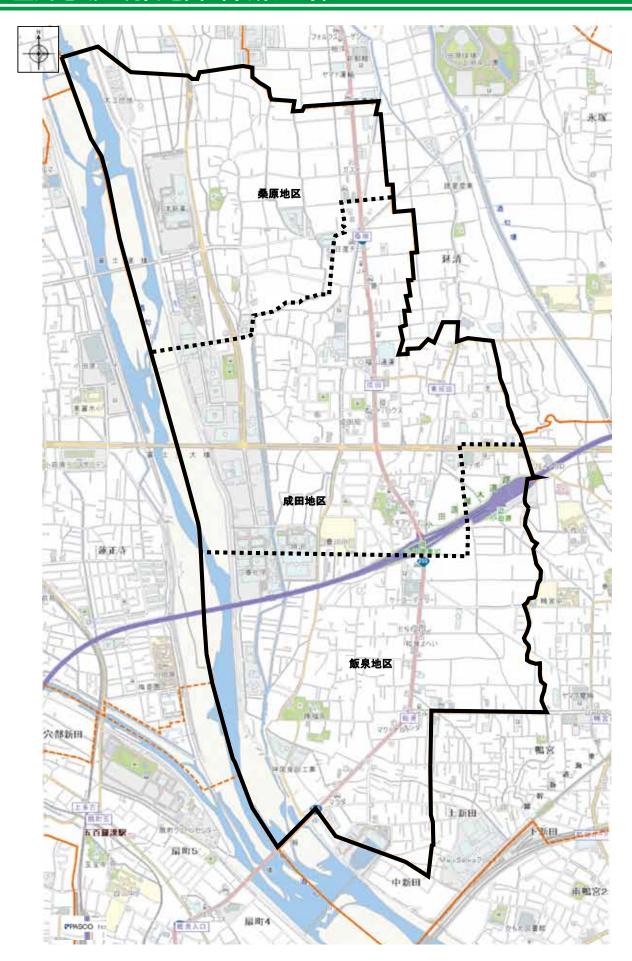




豊川地域コミュニティ運営協議会第3分科会の様子②



## 豊川地域の現代地図(平成30年)



## 1. 飯泉の由来と地域の変遷

豊川地区の世帯は平成30年現在、約4,500世帯です。その中で飯泉地区は、1区、2区、3区を合わせて、2,495世帯で豊川の約55%を占めています。飯泉地区は、1889年[明治22年]豊川村になって、八幡神社、飯泉観音を中心とした一つの自治体でした。長年にわたりこの状態が継続、時を重ねながら、現在は中心地区であった1区は、飯泉観音から北西が住宅地として拡張され、更に下河原の2区の耕作地が住宅地と変貌し、近時がから北西が住宅地として拡張され、更に下河原の2区の耕作地が住宅地と変貌し、近時が加速に255号道路ができ、その沿線に3区の住宅が増えて、遂に飯泉地区の自治会は、昭和59年に三地区に分割されました。

秀吉の小田原攻めの際、水を欲して、いい泉といったのが地名の起源というのは、後世 の作り話です。

余談ではありますが、現神奈川県である相模の国足柄郡飯泉村が起源(ルーツ)である「飯泉」という苗字の方が、全国におよそ6,600人、全国順位としては2,263位だそうです。桓武天皇の子孫で、平の姓を賜った家系である平氏(桓武平氏)良文流土肥氏族は、近年、茨城県に多数いらっしゃるようです。

# 2. 八幡神社と勝福寺を中心に今も栄える飯泉

飯泉の歴史は古く、昔から鎌倉街道・大山街道・足柄山道。箱根山道等々が交わり、酒 句川の渡し場と共に交通の基点にあり、農業も盛んで観音様より北側に大部分が集まっていました。今でもそのあたりには大きな屋敷・敷地の旧家が数多く残っていて人々は神様を尊び、ご先祖様を敬い協力し合って生活していました。

ただ度や起こる洪水や地震、噴火などの天災に苦しみ、そのため奈良時代にそれぞれ由緒のある神社とお寺から御霊を分けていただき、窓願の「八幡神社」と「飯泉観音」を皆でお金を出し合って建てました。そして村の郷社として天下泰平・五穀豊穣・安産・永世平和の守り神として置き、それ以来ずっと大切にしてきたのです。

さらに戦国時代には小田原城の鬼門を鎮護する寺として勝福寺の号を称光天皇から賜って、北条氏代々の篤い庇護も受けていたほどです。

歴史の長さと様々な経験、そこからくる知恵や結束力が生きついて、そこから時代に合わせ発展をしていると感じとることができる、そんな地域なのです。

## 3. 飯泉観音ウォーク

-20の歴史探し-

さて、歴史がわかったので、さっそく探してみよう。 地区のシンボル「飯泉観音・勝福寺」はどこにあるかな。 飯泉観音諸道として20力所あるよ。

- 2. 手水屋 (A) 3. 金堂 (觀音堂)(B)
- 4. 納経塔
- 5. 大日堂
- 6. 水向十三仏

- 7. 弘法大師像
  - 8. 馬頭堂
- 9. 鐘楼 (銅鐘)(A)
- 二宮金次郎初発願の像
- 11. 四脚門

- 13. 大銀杏 (B)
- 14. 力士雷電仇討相撲土俵跡
- 15. 南門

- 17. 青龍水の名井戸
- 18. 新四国八十八力所
- 19. 天菓門
- 20. 烏樞沙摩閣 (東司…お手洗い)

### (A) 小田原市指定重要文化財

(B) 神奈川県指定重要文化財



探せた子は「飯泉博士」だ!! 他のみんなに首慢しよう。 全部探せたかな? また、毎年12月17日は「飯泉観音だるま市」でにぎやかな1日だよ。

## 4. 明治22年に飯泉村・成田村・桑原村が合併し豊川村が誕生

~地区変遷の影響を受けた学区と子ども達~

まゅう とよ かわ むら い いぼみ なる だ くわ はら 旧豊川村 (飯泉・成田・桑原) は昭和29年7月に小田原市に編入合併しました。 飯泉の小学校区の変遷を調べると、明治25年開校の上府中村、下曽我村、下府中村、 じく五ヶ村組合立千代中学校にさかのぼります。その後、小田原市との合併により下南中 小学校および鴨宮中学校の学区となりました。

小学校については昭和48年に開校した矢作小学校の学区となり、昭和58年の豊川小学 校の開校により現在の学区となっています。

飯泉地区が3首治会に分割したのは昭和59年です。理由については記録がなく、推測 ですが、前年に豊川小学校の開校により飯泉の小学校区が二分割されたのと、昭和60年 の地区人口は3,912人であり、過去5年間で500人近く増加したことから、地元発意に より分割されたものと思われます。現在、飯泉1区、2区は豊川小学校に、3区は矢作小 学校に通学しています。

#### 成田物語

## 夏のお盆休みのある日、トヨちゃん(5才)とおとうさんとおじいさんとの会話

おとうさん:今年の夏は、特別に暑い日が続くねぇ!

おじいさん:

| 古じいさん:
| 日じいさん:
| 日じ

トヨちゃん:これを、地球温暖化現象というんだよ。

2人一緒に:トヨちゃんは、よく知っているねえ。

まだまだ、知ってることはあるかい?



やん: そういえば、成田に遺跡があるんだよ。埋蔵文化遺跡群 (No.273遺跡) を発掘調査した市役所のおじさんから聞いたよ。 J A 農協豊川支店の周辺で、今回(2018年)が3回目の調査なんだって。

おとうさん: 成田に遺跡群があるとは、おとうさん、初めて 知ったよ! それでここには、いつごろから人間 が住むようになったんだろう?

トヨちゃん:弥生時代の後期のお墓の跡や、古墳時代から飛鳥時代が、村のはじまりみたいだよ。竪穴住居や高床式倉庫の柱跡、それから、器類が見つかっているよ。

三嶋神社の周辺から、今後の調査があれば、「遺跡の広がりに注目している」と市役所のおじさんが言ってたよ。

おとうさん: 古墳時代は、1700年前。飛鳥時代は1300年前。ずいぶん音から住んでいたんだね。ビックリだよ!! トヨちゃんよく知っていたね。

おじいさん:それにしても暑いね。雪化粧した冬の富土山が恋しいね!! トヨちゃん、富土山が噴火したことがあったんだよ。知ってるかい?

トヨちゃん:うん!宝永4年(1707年)11月23日に噴火したんだね、そして大量の火山灰が16日間も降り、60センチ以上積もったと言われているね。

おとうさん:今は、鹿児島の桜島が、よく噴火するけど、火山灰が降る状況は、道路や屋根に積もって大雨でも降れば土石流となって生活に支障をきたしている。富士山の噴火で火山灰が東側に100キロも飛んで、関東ローム層という地層を作ったんだね。

おじいさん: 特に、酒匂川は、川の流れが急勾配で、台風や大雨の時には、何度も川が氾 濫し甚大な災害をもたらしているんだ。

トヨちゃん:江戸時代、酒匂川沿いに松の木8,000本を植えて、堤防の決壊を防いだと 二宮金次郎の物語に書いてあったよ。

おじいさん:今も、成田の西側を流れる金瀬川沿いには、酒匂川の3本目の土手(堤)として残っているんだ。立派な松の木も残っているよ!

トヨちゃん:その間の2本の土手は、どうしたの?

おじいさん:今の成田工業団地を造る時に整備されたんだ。

今の酒句別は、別様が上がり水深が浅くなり、集中豪雨や台風が来ると大変な被害が起きる可能性があるんだ。

ところで、トヨちゃん。わが家のお骨は、成願寺のお墓に入るけど、成願寺 は知ってるかい?

トヨちゃん:うん。お母さんと一緒に、ご先祖さんの命日や、春、秋のお彼岸、お盆、年末には、お墓参りに行って、お墓の掃除やお線香をあげるよ。

おとうさん: トヨちゃん、いつもありがとう!仕事が忙しくて中々一緒に行けないけど、 おとうさんの分もお参りしてくれてホントありがとう!!

トヨちゃん:成願寺は、曹洞宗寺院として、明応4年(1495年)に開かれたと言われているよ。その年は北条早雲が小田原城入城の年だね。

成願寺は、昭和34年(1959年)に本堂を建て直し、当時としては、画期的な鉄筋コンクリート造りで、「モダン仏教寺院建築」は評判だったんだよ。

2人一緒に:トヨちゃんは、よく知っているねえ。また、機会があったら、家族一緒に、 トヨちゃんの知ってることを教えて欲しいね!

トヨちゃん:またねぇ~!

#### 桑原物語

私たち桑原住民はこの地域に住んでいて不思議に感じたり、疑問がわいたりすることがあります。また、いろいろな行事が行われますが、その由来についてよく分からないと感じたりすることがあります。桑原物語は、そうした疑問や謎から出発し、過去に向かって探検を始めることから紡ぎ出されると思われます。

「現在を感じ、過去を知り、未来を読む」…単なる歴史の勉強ではなく、明日を生きていくための知恵を獲得する旅です。

#### ○地名

また、法政大学文学博士・宇佐美ミサ子著「近世助郷制の研究」(平成10年2月発行)によれば、『桑原村は小田原宿助郷村78ヶ所の中で、元禄7年(1694年)、京保9年(1734年)、寛延3年(1750年)、安永8年(1779年)、文化7年(1810年)のいずれの年の助郷も"全高休役あるいは免訴"になった4ヶ村の一村に挙げられています。他村は、中新田村・下新田村・上新田村)』。これは、酒匂川の氾濫等過酷な自然災害に見舞われた故です。

※江戸時代、宿駅常備の人馬が不足する場合、その補充のために宿駅近隣の村々に課された美役。またそれを課された郷村。

#### ○人口、世帯数

昭和29年(1954年)7月に小田原市に合併しましたが、その時の桑原の人口は538人、世帯数は87戸でした。そのうち農家が8割ぐらいを占めています。

### 

酒匂川築堤上に石造りの水神碑があります。 がはは、耕栽培の神様で、毎年7月の一番干しの時期に、桑原生産組合員、三嶋神社の総代 世話人により「水神祭」が行われます。

桑原地区には農業用水路や堰が多く流れています。西から挙げてみると、一番堰、二番堰、 五間堰、上田堰、車堰、六反田堰、前田堰、鬼やはぎょう すいとよ かり ぶん ざい あり、こうした堰の草刈りを生産組合員総出で行います。

草刈り作業の後、水神碑の前で水神様に感謝するとともに洪水など災害が起こらないように祈願します。



# 【桑原水神の碑文 】 (現代語訳) 大正2年9月 豊川村桑原

6元とそれ 向土手約216m及び副堤約236mが決壊し、その濁流の勢いは荒れ狂うように村内に突入し 人家を倒壊した。浄蓮寺の堂宇は、もう少しで押し流されるところであったが危うく難を逃 れた。その時の被害のいたましさは言葉に言い表せない程であり、県は直ちに応急工事を命 に完成した。その時の工費は2万4千円余りであった。工事には、その当時の県の工区主任 木幡属の設計により、霞式堤防を初めて採用した。しかしながら、その月25日、暴風雨によ り川の水が氾濫し、ついに再び向土手約196m、副堤182m余りが押し流されてしまった。 県は水害がたびたび繰り返されるのを恐れ、12月をもって更に割石セメント工事を開始し、 その事業は着工から2年目の大正2年7月になってようやく完成した。その時の費用は、ま た2万2千円を要した。なぜならば、この堤防は特に頑丈に割石セメント工事で行わないこ とには、豪雨の際水勢が強いため、長い年月持ちこたえることができないからである。今や ここに、容易に決壊することのない頑丈な堤防が完成し、今後二度と水害の惨状を経験する ことは無いであろう。そして今後は荒れ地を開拓することで村民の暮らしを姿定させ、これ により永遠に福利を推進することができるであろう。よって、この新しい堤防の上に碑を建 て、水神様をお祀りし、この堤防が永遠に加護されるよう祈るものである。

### ○石原地蔵尊

小田原市教育委員会編集「身近にある小田原の史 地域 川東版」(平成14年4月発行)によると『成田 に隣接する桑原の水田の中にある石原は小字名であり、正覚寺という旧地名が残っています。昭和51 年(1976年)建立の「延命子育石原地蔵尊」と書かれた石碑が入口道路脇に立ち、その向こうに見える石碑と赤い屋根の堂の傍らには、昭和9年(1934年)建立の由緒を記した「記念碑」があります。

前年11月の災禍により堂宇が壊滅し、翌年に再興されました。再興にあたり、1市4町38村区に募金を呼びかけ、浄財金300余円を得たと書かれています。堂内には石造の地蔵尊座像のほかに「甘堂夜大勢至」の碑が安置されており、毎年3月24日と8月24日に念仏供養が行われています。各家では、子どもが誕生すると、名前を入れた提灯をあげて、健やかに育つことを祈念します。





えんめいこ そだていしはらじ ぞうそん せき ひ (延命子 育 石原地蔵尊の石碑と赤い屋根の どう お堂)



えんめいこそだていしはらじぞうそん どう ひだりて きねんひ(延命子育石原地蔵尊のお堂と左手に記念碑)

これらの小学名の由来を説ねると、地域の歴史に触れることができます。

#### 豊川地域コミュニティ運営協議会第3分科会(文化歴史・教育)分科会会員

O分科会長 O委員

大川 晋作 加藤 純一 山口登志夫 桒畑寿一郎

和田 道明 澤地 光春 田中 修

手水屋

〇副分科会長 椎野 隆司 小川 泉 遠藤 文子

小松 秀樹 相沼 茂治 大木 敏正

飯泉物語担当:加藤、和田、

山口、小松

成田物語担当:椎野、栢沼

桑原物語担当:澤地

え:はせべ くにひこ

公益社団法人 日本漫画家協会 参与





#### 【参考文献】

○飯泉山勝福寺 飯泉観音の歴史

○小田原市教育委員会(平成14年3月28日)身近にある小田原の史跡川東版

タイトル:「温故知新~豊川物語~」発行:平成31年3月20日 初版

発 行 者: 豊川地域コミュニティ運営協議会第3分科会(文化歴史・教育)

印 刷: 株式会社 あしがら印刷